

新しい公共交通検討事業調査報告書

平成25年2月

沖縄県 糸満市

はじめに

調査の背景と目的	P1
----------	----

1. 上位・関連計画の整理	P3
(1) 沖縄県21世紀ビジョン基本計画（沖縄振興計画）	P3
(2) 那覇都市圏交通円滑化総合計画	P4
(3) 沖縄県総合交通体系基本計画	P5
(4) 第4次糸満市総合計画	P7
(5) 糸満市都市計画マスタープラン	P8
2. 糸満市の公共交通を取り巻く現況	P9
2-1. 地域現況	P9
(1) 地勢及び地区区分	P9
(2) 人口及び高齢化率	P11
(3) 主要施設の立地状況	P15
(4) 自動車交通量及び自動車保有台数	P17
(5) 生活移動の状況	P21
(6) 観光移動の状況	P25
2-2. 路線バスの状況	P28
(1) ネットワークの状況	P28
(2) 運行状況	P29
(3) 不採算路線への補助金拠出状況	P30
(4) 公共交通空白地域の状況	P31
2-3. その他公共交通機関の状況	P34
(1) 民間施設送迎バス（ブーゲンビレア号）	P34
(2) 移動支援事業（リフトバス）	P39
(3) タクシーの状況	P40
3. 市民ニーズ等の把握	P42
3-1. 調査概要	P42
(1) 調査の目的	P42
(2) 調査の方法及び回収率等	P43
3-2. 調査結果	P52
(1) 全世帯アンケート	P53
(2) 高齢者アンケート（ブーゲンビレア号に関するアンケート）	P80
(3) 小中学生アンケート	P88
(4) 高校生アンケート	P92
(5) 観光客アンケート	P97

4. 公共交通に関する現状と課題の整理	P103
5. 今後の糸満市公共交通の基本方針	P106
5-1. 基本理念	P106
5-2. 基本目標	P106
5-3. 基本方針	P107
5-4. 基本方針の実現策	P109
6. 既存バス路線の見直しシミュレーション	P121
6-1. 見直し基準（試案）	P122
(1) 評価の必要性	P122
(2) 評価指標	P122
(3) 指標の算定結果	P126
(4) 評価基準値	P127
(5) 指標に基づく評価	P128
6-2. 既存地域公共交通再編（試案）	P129
(1) 公共交通の見直し（試案）	P129
(2) 事業収支の試算	P133
(3) 潜在需要の算出	P136
(4) ケース毎のメリットとデメリットの整理	P141
7. 実証実験に向けて	P142
資料1. 先進地視察	P145
資料2. 関係者ヒアリング	P167
資料3. 糸満市新しい公共交通システム可能性調査検討委員会資料	P176

調査の背景と目的

糸満市は、独特の自然・歴史・文化を有するまちである。戦後は、ひめゆりの塔、健児の塔をはじめとする慰霊塔への参拝団が数多く訪れ、沖縄観光の初期の形を作っていた。復帰後の沖縄戦跡国定公園、ひめゆり平和祈念資料館、平和の礎等の整備により糸満市を訪れる参拝客や観光客は多いが、沖縄観光の宿泊拠点となる那覇市に近いという地理的条件と戦跡に特色をおいた資源活用であるために素通り観光という問題点を抱えている。近年では、整備を進めてきた新エネルギー利用への先駆的取組みにより視察団の増加やアマチュアスポーツのメッカとしてスポーツ合宿利用者が多い。

このような状況の中で、糸満市は、自然・歴史・文化の地域資源、クリーンエネルギー利用施設、スポーツ施設の利用の活性化、及び観光客の安全性確保を一体的に進める『糸満市誰もが訪れたいまちづくり事業』を推進しており、市民の生活環境の向上と観光振興事業に取り組んでいるところである。

『糸満市誰もが訪れたいまちづくり事業』には、『糸満市まるごと博物館事業』『アマチュアスポーツのメッカ事業』『観光客が安心して訪れるまち事業』の三事業がある。

『糸満市まるごと博物館事業』には、沖縄らしい農村と漁村の魅力的な地域（ムラ）を観光資源として発展を目指す『米須村まるごと生活博物館』のように、先駆的事业として高い評価を受ける地域もある。このような観光資源を有する小さなムラにおいては、公共交通基盤が脆弱であるため、点在する博物館（ムラ）をつなぐ公共交通手段の確保が課題となっている。

また、総客室数495室を擁す県内最大級の大型観光ホテルが市内に新設され、多くの観光客が本市を訪れることとなったが、同施設を経由する等の公共交通がなくホテル独自でマイクロバスを手配し、観光客を運搬する公共交通とのミスマッチもある。

一方、本市の公共交通の現状は、少子高齢化やマイカー普及によるバス離れが進行し、赤字バス路線の運行維持のため、恒常的な補助金を支出している。また、新市街地整備による交通空白地域の発生や高齢化の進む地域でのバス路線の減便等、新たな社会情勢の変動に対応する取り組みが求められている。

さらに、公共交通は「いきいきとしたまちづくりの原動力」となるとの観点から、バス事業者と住民に限定した議論にとどまることなく、多様な公共交通の担い手の確保を含めた意見集約に取り組み、地域のニーズに合った未来型の公共交通体系の確立が課題となっている。

このような背景を踏まえ、公共交通の維持・活性化に向け、行政と事業者だけでなく、利用者である住民や企業などが連携・協働する持続的な仕組みを検討する。また、路線バスの利用促進、コミュニティバス・タクシー、乗合タクシー等の導入など、地域の実情にあった新たな公共交通の可能性・方向性を示すこととあわせて、今後予定している実証実験に向けての基礎資料とすることを目的とする。

■糸満市の市民の足の状況

- ◆市民のバス離れが進行し、バス利用者が減少
⇒赤字路線の運行を維持するため、バス事業者に補助金を支出
- ◆企業（民間）送迎バスの高齢者利用制度（ブーゲンビリア号）導入により、バス利用者の減少

■観光振興の取り組み

- ◆『糸満市誰もが訪れたくなるまちづくり事業』の推進
⇒魅力的な農村漁村（ムラ）へ観光客を誘導
- ◆空港から観光宿泊施設への送迎バスの独自運行

■課題

- ◆公共交通問題は、行政とバス事業者の赤字補てんの議論に終始していた。公共交通をまちづくりの原動力として捉えた議論に転換する必要がある。

- ◇ 脆弱な公共交通の中にある農村漁村（ムラ）を観光資源化する取り組みとの関係
- ◇ 観光宿泊施設独自の送迎バス運行との関係
- ◇ ブーゲンビリア号の運行による高齢者の交通確保とバス利用減少の関係
- ◇ 拡大する公共交通空白地帯と公共交通存続のための赤字補てんの存在
- ◇ 国道 331 号バイパスは新たに整備されたが、公共交通が連動していない

■本調査の目的

本市公共交通に横たわる課題を踏まえ、観光の視点や公共交通の支え手の発掘など公共交通の可能性・方向性を検討する。

調査の成果は、今後の実証実験等具体的な取組みに展開する市民及び観光客の足を確保（利便性向上）し、公共交通の利用促進を目指す。